【樹木・草花の部屋】

チョウセンマキ（イヌガヤ科イヌガヤ属　Cephalotaxus harringtonia　forma fastigiata）

和名；チョウセンマキ　　別名；　英名：Japanese Plum Yew
　マツ目　常緑低木
原産地；
花言葉；
花の色；

⇒　写真－１　チョウセンマキの樹形
撮影日：２０１２年１０月７日
撮影場所：京都府木津川市当尾にて
撮影者：S さん

当尾を散策の際、塀越しに立派な大きな槇の木が目に入ったので、写真に撮りました。同行の方がチョウセンマキだと教えてくれました。それにしても大きなチョウセンマキです。

写真－２　チョウセンマキの枝
⇒

撮影日：２０１２年１０月７日
撮影場所：京都府木津川市
　　当尾にて
撮影者：T さん

　これは、槇類には関係なく、朝鮮にも分布はありません。槇に似ていたので、マキと誤って名がついたそうです。イヌガヤの変種、園芸種ですが、すでに江戸時代から庭木として愛用されていたそうです。

【樹木・草花の部屋】

写真－3　チョウセンマキの枝葉
⇒
撮影日：２０１２年１０月７日
撮影場所：京都府木津川市
当尾にて

それにしてもこれだけ伸びるとたいへんです。

＜ちょっと一言＞
チョウセンマキはイヌガヤの品種であり、園芸品種なので野生で生育することはない。母種であるイヌガヤの葉は互生して２列に並ぶが、チョウセンマキはらせん状につく。一見するとイヌマキやラカンマキの仲間に見えるので間違って付けたのでしょう。葉はやわらかく、先端は触っても痛くない。裏面には気孔帯があり、拡大すると白い点々が見える。枝や頂芽は太くて大きくこの点からもとてもイヌガヤの品種とは思いにくい。